

life style

このページでは、障がい者の暮らしの一コマをご紹介します。

サンシャイン劇場



休日の外出は月2〜3回。観劇やカラオケでリフレッシュ

20代のAさん。中度の知的障がいがあります。普段は福祉作業所で袋詰めの仕事を黙々とスピーディーにこなすベテランさんです。オフの過ごし方についてたずねると「家ではよくオレンジレンジの曲を聞いています」と話す音楽好き。カラオケに行くことも多いと言います。今日はちよつと遠出をして池袋まで観劇にでかけました。以前にも母と一緒に観たスーパー・エキセントリック・シアターの舞台。仕事の都合で来られなくなった母に代わって、ガイドヘルパーが付き添います。

自治体は障がいの程度に応じて移動支援が利用できる時間を支給決定します。その範囲内は自己負担が1割。ヘルパーの分を含め移動費用などの実費は利用者が全額負担します。Aさんは月2〜3回外出していますが、一方でガイドヘルパー不足等により、支給決定された時間を使いきれない人が多いことを知りました。一人で外出できない人にとって「買い物に行く」「旅行に行く」「映画やコンサートに行く」などは、リフレッシュと同時に、社会性を養う大事な機会でもあります。

写真：中橋正治

ガイドヘルパー

ガイドヘルパーは正式には移動介護従事者と呼ばれます。知的障がいのある人にはホームヘルパー2級以上の資格があれば付き添いが可能ですが、視覚障がいや全身性障がい(身体障がい)のある人の付き添いには、特定の移動介護従事者としての研修を受ける必要があります。さらに行動に困難が伴う人には行動援護従事者の資格が必要で、こちらは実務経験が問われます。

表紙の元絵は「花」という作品。高次脳機能障がい者活動センター調布ドリームの「絵を描こう」というプログラム内で創作。繊細な作業はできないが、感じたままに明るく、心のおもむくままに描いてみました」と本人談。